

# 阿木小だより



## 大きな成長を実感して締めくくる前期 ～「節目」を大切に～



先日は、本校の運動会へお越しくださり、ありがとうございました。雨と猛暑の天候不順の中、今年度もコロナ感染対策を講じており、十分な環境ではありませんでしたが、子どもたちはできる形で精一杯取り組んできました。当日は、これまでに培ってきた力や練習の成果を存分に発揮し、前期の集大成としてふさわしい、すばらしい姿を見せてくれました。それは、当日のご家族の皆様のご温かい拍手やご声援だけでなく、これまでのお子さんへの寄り添いや励ましがあったからこそだと思っております。本当にありがとうございました。

さて、本日で前期が終わりました。終業式では、こんな話をしました。

全校に皆さんは、この前期間本当によく頑張り、たくさんの力を付けてきました。今日で「前期」が終わり、来週から「後期」が始まります。このような、一つのまとまりから次へのまとまりにいく区切りの時期のことを、竹の節になぞらえて「節目」といいます。(昨年度も話しましたね。)

竹はこの節があることで、上の部分をしっかり支え、上へ上へと真っ直ぐ伸びていきます。これは、人も同じで、区切りを大事にすることで、真っ直ぐ、上へ上へと伸びていく力をもっているからです。

そして、この竹の節は、他にもすごい力をもっているのです、それを紹介します。

一つ目は、節があることで、とても伸びるのが早くぐんぐん伸びる<ということ>です。早いときは1日に1mくらい伸びるそうです。それは、節一つ一つに、竹を成長させる力があるからです。例えば、1つの節が10cm伸ばすとすると、2つの節で20cm、3つの節で30cm成長するということです。だから、竹にとってこの節はとても大事な部分です。

二つ目は、節があることで、どんなに強い風にあたって、折れることなく、また起き上がって成長を続けるということです。竹よりもはるかに太い幹の大木や硬いセメントで作られた電柱が嵐で倒されたとしても、そのとなりで高く伸びた竹は、折れることなく生きています。このように柔らかく曲がることを「しなやか」と言いますが、しなやかに曲がって、もとに戻ることができるのも、「節」があるからです。皆さんは、「しなやかな人」という表現を聞いたことはありますか？どんな人のことかということ、「心が柔らかくて、強い人」のことです。失敗してもあきらめない心、思い通りにいかなくてもイライラしないでどうしたらいいかを考えられる心、不安でも勇気を出して一歩前へ進む心、自分と違う考えや人を温かく受け入れて大事にしていける心・・・そんな心がある人のことです。これは、竹の「しなやかさ」からきた表現です。

でも、実はどの竹も同じように成長するわけではありません。まっすぐ伸びることを支える、ぐんぐん勢いよく伸びることを助ける、しなやかに曲がるように支えるためには、強い節が必要です。つまり、しっかり鍛えてあり、栄養がたっぷり詰まった丈夫な節をもつ竹が成長できるのです。

では、私たち人間が、まっすぐ、ぐんぐん伸び、しなやかで強い心にするために、大事にすることは何でしょう。それは、この「節目」の時期を大切に、丈夫に鍛え、栄養をたっぷり蓄えることです。そのために、自分が一生懸命に頑張ったり、仲間から力をもらったりして、できるようになったことやがんばったことをしっかり確認して、次に使えるように準備をします。ぜひ、後期をスタートさせる前に、前期の振り返りをして、自分や学級の成長したことを確認しましょう。そして、次の目標をしっかりと掲げてください。この「目標」は、伸びる方向や長さ(量)になるので、これも大事にしましょう。これまで頑張ってきた皆さんだからこそ、今日は、そんな一日になるといいですね。



今年度は、運動会に限らず、感染対策を講じ、多くの行事や校外学習、地域の方とふれあう活動を実施してきました。子どもたちの様子から、改めて人とのふれあいや体験活動の重要性を感じているところです。ご理解とご協力、ありがとうございました。

さて、本日「子どもの姿」を持ち帰っています。ぜひ、ゆっくりお子さんと見て、何が頑張れたかに耳を傾けていただきたいと思います。そして、その頑張りを大いにほめていただければ幸いです。それが、きっと明日からのエネルギーになることでしょう。どうぞ、よろしくをお願いします。

《前期に頑張ったこと》 ー終業式での発表よりー



【2年 松岡 そうすけ さん】

ぼくが、ぜんきががんばったことは、うんどう会です。うんどう会でがんばったことは三つあります。一つ目は、おうえんです。れんしゅうのとき、いっぱいこえを出しました。こえがかれてのどがいたくなかったけど、がんばりました。

二つ目は、ぐれんのまいのおどりです。手をのばしたり回したりするとき、手が下がらないように気をつけました。一年生に教えるとき、わかりやすく教えるのがむずかしかったです。もっと上手になってほしいと思って、足のうごかし方がわかるように、ゆっくりおどって見せました。そうしたら一年生の子がじょうずにおどれるようになったので、うれしかったです。

三つ目は、ゴーゴーかけっこです。いっしょにはしるたくまさんとみおさんが、とてもはやいし、二人とも赤だんだから、ぬかしたいと思いました。じめんをけて大またではしかったけど、ぬかすことができなくてくやしかったです。でも、いっしょけんめいがんばったので楽しかったです。

らいねんのうんどう会は、花がさをおどるので、かっこよくおどりたいたいです。

【4年 西尾 らむ さん】

わたしが前期全力で取り組んだことは、三つあります。

一つ目は、あいさつです。あいさつをすると、心が気持ちよくなります。わたしは朝、人に会ったら人の目を見て元気よくあいさつをしました。

二つ目は、委員会です。わたしは、放送・歌声委員会に入り、全力で取り組みました。放送では、みんなに聞こえる声ではきはきとしゃべりました。朝の歌では、きれいな声で歌うなど、目当てをたっせいできるように歌いました。

三つ目は、クラブです。わたしは、つるしかざりクラブに入りました。つるしかざりは、糸を通してむすぶのがむずかしかったです。月やあめ、うさぎ、星などをぬいました。わたを入れるとき、入れるりょうがわかりませんでした。でも、地域の方がやさしく教えてくれました。上手にできたのでうれしかったです。

わたしは、後期もあいさつを続けていきたいです。学習では、ていねいな字で書き、授業に集中したいです。

【6年 後藤 大輝 さん】

僕が前期頑張ったことは、六年生として、全校のお手本になることです。その中でも三つのことを頑張りました。

一つ目は、全校が集まるときの挙手や反応です。五年生の頃の僕は、人前に立ったり、目立ったりするのが苦手でした。それで感想交流などの挙手はあまりせず、反応も小さな声でしかできませんでした。でも、友達に「やってみて失敗するより、やらないほうがかっこわるいよ。」と言われたので、手を挙げてみました。緊張したけれど、手を挙げるのができたのでよかったです。これからは、自信をもって手を挙げられるようになりたいです。

二つ目は、挨拶です。僕は最初、同じ学年の友達としか挨拶ができませんでした。でも、一年生の子が「おはよう」といってくれたのが嬉しかったので、僕も頑張って挨拶を試みようと思いました。最初は小さな声でしかできなかったけど、一生懸命やったら大きな声で挨拶ができるようになりました。挨拶はその人のことを知る第一歩だと思うのでこれからも大切にしていきたいです。

三つ目は、他学年との交流です。僕は最初、同じ学年の子としか遊ばずに、他学年と話すこともあまりありませんでした。でも六年生になったので、いろいろな人のことを知った方がよいと思い、他学年の人に話しかけてみようと思いました。最初はなかなか話しかけられなかったけど、低学年の子に話しかけてみたら、喜んでくれました。とても嬉しかったです。

これからも、最高学年として全校を引っ張っていきけるように、いろいろな人に話しかけ、みんなが協力できる阿木小学校をつくっていきたいです。

**お知らせ！**

☆10月18日、新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバー出演による三重奏コンサートを鑑賞します。費用は旅行積立費から支払います。(1人550円程)欠席された場合、返金できませんのでよろしくお願いします。

☆11月22日(火)は職員の研修のため、12時20分集団下校となります。